

Title	混接充填二就テ
Author(s)	血脇, 守之助
Journal	歯科医学叢談, 1(2): 7-12
URL	http://hdl.handle.net/10130/1837
Right	

ノ火力ヲ用ヒテ青色ヲ呈シタルハ彈力性ヲ要スル器具ニ適ス等各其器械ニ依リ差別アルヘキニ本邦ノ器械製作者ハ此區別ヲ知ラス異種ノ器械モ皆一樣ノ火力ヲ以テ製スルカ如シ此レ完全ノ域ニ至ラサル所以ナリ

(未完)

學 說

○混接充填ニ就テ (Concerning Combined Fillings)

ドクトルハミルレル氏原著

血脇守之助 譯

現時吾齒科社會ニ喧傳スル所ノ充填材料ハ其數少ナカラスト雖モ完全無缺ニシテ其場合ノ如何ヲ問ハス常ニ能ク吾人ノ使用ニ適スヘキ所謂理想的充填材料ノ名稱ヲ冠セシムヘキ者ニ至リテハ未タ之アルヲ聞カス蓋シ一利害ノ相隨伴スルハ物ノ通性ナルノミナラス齶窩ノ形狀モ亦千差萬別ナルヲ以テ或ル場合ニ在リテハ一材料ノ長所ト認ムヘキ性質ノ他ノ場合ニ於テ却テ短所タルカ如キハ數ノ免レサル所ナリ例セハ複雑ナル形狀ヲ爲セル齶窩 (Compound cavities) ノ充填ニ際シ倔蒼百兒加ハ頸部ノ充填ニ適スルモ咀嚼面ニ可ナラサルカ如キ或ハセメントノ往々咀嚼面ニ於テハ好結果ヲ得ルモ頸部ノ充填ニ適セサルカ如キハ吾人ノ常ニ實驗スル所ナリ茲ニ於テ近時一齶窩ヲ充填スル材料

ヲ敢テ一種ニ限ラス更ニ二三種トナシ各其優ル所ニ從フテ充填スルノ却テ徹頭徹尾一材料ヲ以テスルニ比スレハ其結果ノ實驗上大ニ見ル可キ者アルヲ唱フルニ至レリ而シテ其種類ニアリ

第一種ハ同一齶窩ノ諸部ヲ充填スルニ異種ノ充填材料ヲ以テスル者ナリ例セハ偲蒼百兒加ヲ以テ齶窩齒頸部ヲ充填シセメントヲ以テ咀嚼面ヲ充填スルノ類ニシテ之ヲ接合充填 (Jointed Fillings) ト云フ

第二種ハ二種以上ノ充填材料ヲ混和シ之ヲ以テ充填スル者ニシテ之ヲ混和充填 (Mixed Fillings) ト云フ

吾人ハ今此等二様ノ充填法中價值アリト唱道スル數法ノ利害得失ヲ論究シテ齒科社會ノ注意ヲ乞ハントス然レモ其方法中往々未タ充分ノ實驗ヲ經サルヨリ稍々之ヲ省略セル者ナキニアラス讀者乞フ之ヲ諒セヨ

〔第一〕齶窩ノ底部ト咀嚼面ヲ形成スル充填材料トノ中間ニ齒髓保護ヲ爲メ他ノ材料ヨリ成ル一層ヲ作爲スル

此方法ヲ以テ充填ヲ爲スハ頗ル適當ノ處置ナリト雖モ其如何ナル材料ヲ以テ最良ノモノトスベキヤ吾人ノ未ダ多ク耳ニセザル所唯ギルマー氏ノ一千八百九十一年十二月デンタル、レヴューニ論述セルヲ見ルノミ惜イカナ未ダ其斷定ヲ下シテ世人ノ満足ヲ買フ能ハザルヲ

〔第二〕不粘性金箔ト能粘性金箔トノ接合充墳

能粘性金箔ト不粘性金箔トノ接合充墳ハ同一齶窩ニ於ケル各部ノ充墳ニ向テ特殊ノ利益アリトハ今尙多數齒科醫ノ唱道スル所ニシテ即チ大ナル冠部ノ齶窩ニアリテハ其頸壁 (Chival Wall) ニ不粘性金箔ノ束帶ヲ施シ然ル後能粘性金箔ヲ以テ接合充墳ヲナスモノアリ又前齒ニアリテハ其頸壁及口蓋面ヲ被フニ不粘性金箔ヲ以テスルモノアリ或ハ齶窩ノ各壁ヲ裏装スルニ不粘性金箔ヲ以テシ唯其中央部ノミ能粘性金箔ヲ以テ充墳シ以テ充墳物全体ヲ密着セシムルノ心髓タラシムルモノアリ

此治術ノ長所タル普ク世人ノ知了スル所ニシテ余モ亦余ノ實驗ニ對シテ其長所タルヲ疑ハズ唯余ハ此ノ如キ場合ニ際シテハ多ク不粘性金箔ニ代用スルニ錫ト黃金トノ合金ヲ以テセリ

此治術ニ對シ不粘性金箔ハ底部ニ適セズトカ或ハ能粘性金箔ハ充分ナル固定力ヲ有セズトカ所謂學理的故障ナルモノハ余ノ未ダ曾テ實見セザル所ナリ然レモ小碟ノ如キ形狀ヲ有スル齶窩ニアリテハ能粘性金箔ヲ使用スルノ頗ル困難ナルヲ覺エタリ仍テ齶窩ノ大體ヲ充墳スルニ不粘性金箔ヲ以テシテニ能粘性金箔ヲ使用シ幸ニ其困難ヲ免ル、ヲ得タリ

〔第三〕錫ト黃金トノ接合充墳

スプーナー氏ノ報告ニヨレハ黃金ト錫トヲ混用セルハ五六十年来ノコトニシテ近來ニ至リテハ第二例ニ陳ベシ如キ方法ニヨリテ廣ク世上ニ行ハル、ニ至レリ其齶窩ノ頸縁ニ極メテ薄キ錫ノ一層ヲ

敷クハ其結果單ニ金箔ヲ用ユルヨリ良好ニシテ殊ニ錫ノ酸化ニヨリ密接ナル結合ヲ生ジ恰モ能粘性金箔ノ細粉ヲ以テ完全充填ヲ施シタルガ如キ状態ヲ呈スベシ此二種ノ材品ハ暫時ニシテ結合スルヲ以テ前述セル能粘性金箔ト不粘性金箔トノ間ニ生ズル故障ノ如キハ決シテ存在スルコトナシ

余ハ未ダ曾テ此治術ノ經驗ヲ有セズ唯此ノ如キ場合ニ際シテハ專ラ錫ト黃金トノ合金ヲ使用シ
(第五例ニ詳述ス)常ニ好成績ヲ得タリ

〔第四例〕錫ト黃金トノ混和充填

今茲ニ此合金ニ就テ詳述セントスレバ此編ニ順次掲載スル十七例ヲ説述スルニ要スベキ紙數モ尙ホ少ナキヲ覺ユ加之ノミナラズ此問題ハ現今齒科ノ業務ニ從事スルモノ、常ニ研究セシ所ノモノナレバ近來又敢テ新奇ノ發見アルニアラズ故ニ余ハ今唯之ニ關スル少許ノ事實ヲ陳ヘテ以テ聊カ參考ノ資ニ供スルトコロアラントス

米國ニテハ熱心ニ此合金ヲ使用スルノ可ナルヲ主張スルモノアリ然レモ數多ノ人ハ却テ之ヲ論駁シテ其不可ナルヲ唱道セリ而カモ其徒多クハ經驗ニ乏シキカ或ハ未ダ曾テ實試セザルモノ、ミナルヲ以テ其説ハ此合金ヲ使用シテ好成績ヲ得タル齒科醫ノ留意スル所トナラザルハ自然ノ勢又已ヲ得ザルナリ余モ亦此合金ニ關スル二三ノ批評ヲ讀ミタレドモ不幸ニシテ公平ナル學理的批評ヲ下シタルモノアルヲ見ズハンガーフホード氏ノ如キハ金箔ノ使用ニ巧ナラサルモノハ好ンデ此合金ヲ使用

ステウ辯論(一千八百九十一年五月ウエスターン、デンタル、ジャーナル雜誌二百四十頁)ヲナシ其他此合金ニ關スル批評ハ概テ此論法ニ出テザルナシ借問スハ氏ハ何カ故ニ此合金ノ使用ヲ否認スルヤ吾人ハ同氏ノ之ニヨリテ更ニ得ル所アルヲ知ラザルナリ又假令黃金ト錫トノ合金ハ金箔ノ使用ニ巧ナラザルモノ、ミ其要求ニ應スベキモノナリトスルモ是亦齒科醫ト公衆トノ爲ニ大ナル幸福ニアラズシテ何ゾヤ

尙一步ヲ進ンデ之ヲ論スレバ現今金箔使用ニ熟練ナルノ極其金充填ニ對スル熟練ヲ要セザル材品ハ一切顧ミズニ金充填ノミニ從事シテ毫モ正鵠ヲ誤ラザルノ齒科醫世界シテ幾人カアル加之ノミナラズ此合金若クハ不粘性金箔ノ完全充填ハ能粘性金箔ヲ以テ山ヲ築クヨリ遙カニ熟練ヲ要スルモノナルヲ思ヘバ此合金ノ充填談豈ニ容易ナランヤ

世人ハ充填材料トシテ黃金ヲ貴重スレモ黃金ハ未ダ以テ完全無缺ナリト稱スルヲ得ズ然レモ之ト同時ニ他ノ材料ヲモ併セテ排斥スルニ至テハ吾人ノ斷シテ採ラザル所ナリ況ンヤ其所謂他材料ナルモノハ未ダ黃金ノ研究ニ於ケルカ如キ注意熟練及忍耐ヲ以テ研究セザリシノミナラス其粗漏ノ研究モ漸ク二十餘年ニ垂ントスル今日ニ於テヲヤ

余ハ十五年間黃金及黃金ト錫トノ合金ヲ使用シテ其合金ノ黃金ノ單用ニ比シテ好成绩ヲ呈セルノミナラズ術者患者共ニ其治療ノ容易ナルヲ實驗セリ而シテ其施術ニ至リテモ敢テ他ト異ナル所アラ

ザレハ此材料ヲ使用スルニ當リテ其法ヲ誤ラス能ク巧妙ナル手術ヲ行ヒタラシニハ全一ノ結果ヲ得ル疑ナカルベシ之レ余一家ノ言ニアラズ數多齒科醫ノ實驗セルトコロナレバ必ズヤ信ヲ措クニ足ラ

ン
黃金ト錫トノ合金ヲ使用スルノ手術ハ一朝一夕ニシテ能クスヘキニアラス其材料ノ挿入モ亦注意ヲ要スルコト少カラチ未ダ不粘性金箔ノ使用ニ慣レザル齒科醫ノ如キハ必然多少ノ困難ヲ見ルヘキハ異トスルニ足ラザルナリ黃金ト錫トノ合金ノ製法粗惡ナレバ甚タ脆弱トナルカ或ハ粉末狀ヲ呈スヘク其製法善良ナレバ決シテ然ルコトナカルベシ故ニ此合金ノ捲棍(Horn)ヲ製スルニハ特ニ注意シテ汗氣若クハ濕氣ヲ帶ビタル指頭ヲ用ユベカラス又之ヲ使用スル前ニ當リテハ濕氣ノ塲所ニ置ク可ラス若シ此注意ヲ怠ラハ硬固トナリテ手工ノ技ニ應ゼザルニ至ラン、術者ノ大ニ注心留意ヲ要スル所ナリ(未完)

鑄型ヲ用ヒズシテ金冠齒ヲ製作スルノ法

ドクトル 一 井 正 典

充填シ得ベキ窩洞ニハ自カラ制限アリ故ニ若シ一白齒ノ殘存部ニシテ充填物ヲ保ツニ堪ヘサルガ如キ時ニ當リテハ人工齒冠ヲ用キ以テ其齒根ヲ保存スルヲ可ナリトス例ヘハ下顎第一白齒ノ後部ニ